

EIWAN は 2016 年も、 さまざまなプログラムを継続し、試行していきます——

●日本語サロン福島&白河

福島サロンは EIWAN 事務所「ふくしま活動スペース」で、週 1 回（木曜日午前）+ 月 2 回（土曜日午前）、白河サロンは公民館を借りて月 2 回（日曜日午後）実施します。

●からふるカフェ

「からふる（多文化）カフェ」を昨年 4 月から毎月開催してきましたが、今年は福島市で年 4 回、出前カフェを年 2 回、「開店」します。

●「やさしい日本語」防災ワークショップ

地震が多発する中で、『外国人のための防災ガイドブック』を作成したくやさしい日本語>有志の会代表の花岡正義さんを講師として、地域市民・自治体職員のためのワークショップと、外国人住民のための防災ワークショップを、県内各地で開催していきます。

●放射能被害の情報提供と相談

放射能に関する基本的な情報を、やさしい日本語、あるいは移住女性の母語で伝えることが必要であることから、私たちは、国際協力 NGO センター / ADRA Japan / こどもみらい測定所が編集したブックレット『はかる、知る、くらす——子どもたちを放射能から守るために、わたしたちができること』の中のイラストと用語解説をタガログ語に翻訳する作業を昨年からはじめたが、難航……。今夏には完成させたい。

●蓬莱子ども教室への支援

昨年 5 月から「子ども教室」が EIWAN ふくしま活

動スペースで始まった。教室は週 1 回、午後 3 時～7 時、小学校 1 年生から高校生までの、外国にルーツをもつ子どもを対象に開かれている。私たちは会場を提供し、教室運営は蓬莱日本語教室が担っています。また、蓬莱日本語教室が毎年おこなっている「多文化キッズキャンプ」を、今年は EIWAN が共催します。

●第 2 回子ども多文化フォーラム

昨年 4 月に「第 1 回ふくしま子ども多文化フォーラム」を開催しましたが、今年は 11 月 19 日（土）午後 1 時から、郡山市中央公民館で開催します。

●リフレッシュ・プログラム

言葉の壁や経済的理由などで保養が十分にできない移住女性とその子どもたちのために、今年も 1 泊 2 日、4 泊 5 日、7 泊 8 日などのリフレッシュ・プログラムを準備します。

●移住女性「ふくしま My Story」記録化

フィリピン、中国、韓国出身の移住女性 7 人のインタビューを、『か・ら・ふ・る——福島で暮らす外国人女性たちの My Story』として冊子にまとめると共に、今夏には英訳版を発行。

●相談活動・同行支援活動

●ネットワークづくり

●情報発信活動

など……

提言活動にもチャレンジ

福島移住女性支援ネットワーク (EIWAN)

〒960-8055 福島市野田町 2-3-2 神野ビル 3F 東 (JR 福島駅西口から徒歩 7 分)
電話 080-8215-1556 メール eiwan311@gmail.com
ホームページ <http://gaikikyo.jp/shinsai/eiwan>
フェイスブック <https://www.facebook.com/eiwanfukushima>



福島移住女性支援ネットワーク (EIWAN)

Empowerment of Immigrant Women Affiliated Network

第 13 号

◆発行◆ 2016 年 3 月 11 日 (隔月刊)

酒田市で「防災講座」 報告



1 月 30～31 日の二日にわたり山形県酒田市で開催された防災講座で、話をしてきました。

初日は日本人（日本語ボランティア、防災担当の市職員など）が対象で、テーマは「災害発生！ 情報をわかりやすく伝えよう」、サブタイトルは「外国出身者を支援するためのやさしい日本語講座」です。

阪神淡路大震災や東北大震災では、多くの外国人も被災者しました。日本語も英語も理解できず、必要な情報を受け取ることができない人も少なからずいたからです。災害時に使われる日本語は、ふだん使われない言葉や言い回しが多く、外国人住民にとって難しいもので、「災害時の情報」を外国人に分かりやすく伝える手段のひとつとして、日本各地で取り入れられているのが「やさしい日本語」です。どんな言葉がわかりにくいのか、どんな表現だったら理解できるか、といったことを実例を交えながら、「やさしい日本語 12 のルール」を話しました。

二日目は、主に外国人住民が対象（日本語教室の学習者プラス日本語ボランティアと市職員など）。

ここでは日本で発生するいろんな自然災害の画像を見もらった後、とくに地震発生時の行動をどうするか、どうやって身の安全を守るか、を考えました。具体的には「寝ているとき」「料理をしているとき」「ショッピングをしているとき」「車を運転しているとき」それぞれの場面ごとに考えてもらいました。

次に「避難所」です。自分の住んでいる家が壊れた時、また自分の家にいると危ない時のために、「避難所」があること、避難所は誰でも行けること、避難所には水・食糧、そしてトイレなどがあり、情報も得ることができることなどを、知ってもらいました。また、地震が発生するとライフライン（水道・ガス・電気）が止まり、生活ができなくなること、これに備えて水や食料、簡易トイレなど、いわゆる防災備蓄品といわれるものの必要性などを話しました。最後にグループに分かれ、ハザードマップを見ながら、自分の家や近くの避難所、危険箇所などを確認しました。

1 回話を聞いただけでは、十分な理解が得られたとは思いません。今後は時期を考えながら防災に関する話をしていくことが求められます（そのためには日本語ボランティア自身が防災の知識を身につける必要があります）。

EIWAN では今年度、昨年に引き続いて、福島県内で「やさしい日本語」防災講座や、「外国人住民向け防災出前講座」を計画しています。

●花岡正義 (EIWAN 運営委員)

第11回からふるCafé 「多文化の歴史と文学」



1月17日、第11回からふるカフェを開催した。

2016年最初の「からふるCafé」は、梁淑姫さん（ヤン・スクヒ／韓国出身）をお招きして、「多文化の歴史と文学」をテーマに話してもらった。梁さんが紹介してくれたのは、在日朝鮮人作家・張赫宙（チャン・ヒャクチュ／1905～97年）です。張は在日1世としていくつかの著作を世に送り出した。張は、当時の日本の文壇からは朝鮮社会を語ることを期待された一方

で、朝鮮の文壇からは受け入れられないという、ふたつの国の社会・文化の狭間を生きることを強いられた作家でした。この張の人生と作風を、梁さんはときには軽妙にわかりやすく解説してくれた。同時に、現代の「多文化」化とアイデンティティの関係、他者を思いやる「想像力」についても話してくれた。

今回も12月に引き続き、多くの方が参加してくれました。参加者のみなさんからは、「相手のことを理解するには想像力は欠かせないと思う」、「『〇〇人对〇〇人』ではなく、『私とあなた』という関係性を作っていけるような教育とか対話力の育成について考えさせられました」などの感想をいただいた。

自分の価値観や尺度だけを相手に押し付けないようにしよう、相手の文化的バックグラウンドや事情を考慮することを忘れないようにしよう、そのようなことをあらためて考えせられたカフェであった。

第12回からふるCafé 「ドリーム・マップをつくろう！」



2月20日、第12回からふるカフェ。今回のテーマは「ドリーム・マップをつくろう！」。これは近年、企業や学校で取り入れられているキャリア形成のメソッドです。今回は、ドリーム・マップ協会認定講師の高橋とし恵さんと石川友理さんをゲストに迎えた。

まずは基本的な説明を受けた。ドリーム・マッ

プを作るためには、今の自分がどんな状況にあっても、まずは「I'm OK」と考えるところから始めます。それから、「心・物・他者・社会」の4つのセクションからドリーム・マップを作っていきます。

説明後、さっそくドリーム・マップ作りが始まりました。紙の中央に夢や目標を書き、自分のイメージにあった写真を貼ったりして作っていきます。おしゃべりしたり、黙々と作業に集中したり……時間はあっという間に過ぎていった。最後に、各自のドリーム・マップを紹介し

あいました。「カフェを作りたい」、「静かな環境で暮らしたい」、「お店をひらきたい」……。どのマップも、色々な夢や目標で彩られていた。

参加者のみなさんからは「実はすでに夢に向けての一步を踏み出していたことに気付きました」、「自分の内面や考えにじっくり思いをはせることができ新鮮でした」などの感想をいただきました。今回のからふるCaféが、みなさんの夢や目標達成のための、最初の一步となれたら幸いです。

第13回からふるCafé 「外国につながる子どもたち」



てゲストをお招きし、話を聞いた。ゲストは、中国出身者を母にもつ大学生です。

まずは、進行役によるインタビューに答えるという形式で、母親の来日経緯や本人の生い立ちを語ってもらった。幼い頃は中国語を学ぼうとはあまり思わなかったけれども、大学生になって中国語を学ぼうと思うようになったこと、そしてその動機などを、ゲストの大学生はとても率直に話してくれた。

さらに、参加してくださったみなさんとの活発なやり取りが展開された。母とのやり取り、本人のアイデンティティ、母の祖国に住む親せきとの交流、将来のこと……。参加してくださったみなさんからは「外国につながる子どもたちについてざっくばらんに聞くことができよかった」などの感想をいただいた。

参加してくださった方々はもちろんのこと、いろいろな質問に率直かつ真摯に答えてくださったゲストの大学生に心から感謝します。

3月13日、第13回からふるカフェ。3月のテーマは「外国につながる子どもたち」です。両親または、そのどちらかが外国出身者である子どもたちの経験や課題について、近年注目が集まっています。とりわけ福島においては、移住女性の多くが直面している課題です。今回は、そうした外国にルーツを持つ子どもたちについ